

令和3年4月27日（火曜日）



【参院決算委】足立敏之議員が事前防災対策の充実求める



足立議員（右下）の質問に答える赤羽大臣

26日に開かれた参議院決算委員会において、足立敏之議員が事前防災対策の充実や諸外国と比較して貧弱な日本のインフラ整備水準を高めるための公共投資拡大の必要性を訴えた。

足立議員は、毎年激甚な水害・土砂災害が発生していることを踏まえると、流域治水の推進などハード・ソフト両面にわたり施策を総動員して事前の防災対策に当たるべきとの考えを示した。国土交通省の赤羽一嘉大臣は昨年度末に全国109の1級水系等で流域治水プロジェクトを策定・公表したことに触れ「これは第一歩であって、洪水リスクがどれだけ増えるかということ踏まえた、具体的な流域治水

の計画を作っていかなければならない」と説明。頻発する地震の傾向を踏まえた、耐震対策などの事前の防災対策も充実させるべきとの指摘に対しては「インフラの耐震対策は、人的被害や短期的な経済被害だけでなく、長期的な経済被害の損失防止という観点からも極めて重大。インフラの耐震化対策はいまだ道半ばということを自覚して対応しなければならない」とし、流域治水と同じ重要度を持ちながら、耐震化を進める姿勢を見せた。

また、足立議員は「日本のインフラの整備水準は諸外国と比較して、やはり貧弱と言わざるを得ないと思う。今後しっかりと公共投資を拡大して着実にインフラ整備を進めるべき」と強調。財務省の中西健治副大臣は、国土形状の違いや統計手法によって見方が異なる部分があるため「貧弱とまでは言えないのではないか」としながら「大災害の多発化もあるので、引き続き公共事業予算については厳しい財政事情も踏まえつつ政策効果を高めるために重点化・効率化を図っていきたい」と答弁した。足立議員は、インフラ整備等を通じて「あらゆる面で日本は豊かだと若い人たちが実感してもらえる社会の実現を」と要望した。